

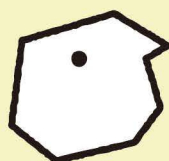
2023年度

こども達を孤立させないつながる伴走支援

活動報告書

NPO法人こどもサポートステーション

たねとしずく



たねとしずく

こどもサポートステーション

たねとしずくとは

すべての子ども達が尊厳を守られ、
のびやかに育ち、自分の人生を選べる社会の実現

子ども達が生まれ育った環境に左右されずに、安心して暮らせ、こどもらしい成長を遂げ、自分が望む人生を選べる社会、すべての人が生まれてきてよかったと思える社会の実現をめざして活動しています。

ひとり親・生活困窮世帯の子ども達の支援
孤立した状態にある子ども達の支援

たねとしずく主な3つの事業

ユースセンター
運営
ライブラリー

10代の若者を中心にした
こどもの居場所支援

支援者支援

支援者を増やしケアする

地域支援する人を増やし
連携するための支援者支援

訪問支援

困難家庭の生活支援

・ひとり親
・困窮世帯対象の訪問型生活支援
(こども支援・家事支援)

設立

2022年7月任意団体として活動開始

2023年1月NPO法人化

2023年8月「たねとしずくライブラリー」オープン

活動場所

兵庫県西宮市

当団体の特徴



訪問&居場所のハイブリットによる支援

家庭を訪問すると同時に、居場所（たねとしずくライブラリー）を活用することで親子と多様なかかわりを持つことができます。時には親子が離れる時間を持ち、お互いに距離をとることができます。また、訪問支援が終了した子ども達や親がライブラリーに来て、スタッフと顔を合わせ話をすることができ、長期的につながり続けることができます。

運営スタッフと学生スタッフ（インターン）の協働

当団体は、多様な経験を持つスタッフがお互いを補いあいながらこどもの支援を行っています。子育て世帯向けの訪問支援を行ってきたスタッフや保育士・公認会計士・看護師が運営スタッフとして活動しています。また、大学生をインターンとして採用することで、最新の教育観や支援観を取り入れ、インターンの挑戦する意欲をいかし事業を進めています。

こどもの権利を軸にした活動

子ども達を権利の主体としてとらえ、スタッフは子ども達の人権を守り活動を行っています。こどものセーフガーディング（活動における性被害や虐待防止のための行動指針）を策定し、こどもの安全を約束しています。また、こどもの主体性や選択を大切に考え、意見を出せる環境を整えることを意識しています。そのために、こどもの声を聞くための「メタファシリテーション®」というコミュニケーション手法を、新人研修に取り入れています。

こどもの未来応援国民運動

子ども達を孤立させないつながる伴走支援

事業背景

これまで出会ったひとり親家庭の中には、家事やきょうだいの世話などケア的な役割を担っている子が多く見られました。また、親が多忙であったり、疾患、経済困窮により、こどもらしい体験や学習補助が不足している子や、発達障害などで学校での学習についていくのが難しい子の存在が分かってきました。親のメンタルヘルスや経済的な困難が重なり虐待リスクが高い子もいます。こども達の背景とニーズが多様であるため、こども達に個別的なケアが必要であるが相談する場所が身近になく、自分の困難に気づかずにしんどさを抱えこんでいます。こども達からSOSを出しやすいように、いつでもこども達を迎え入れ、こども達がドアを開けやすい居場所を作る必要性があります。

事業内容

主にひとり親家庭の小学生～中学生が学校や家庭、地域から孤立することを防止、ヤングケアラーの防止、不適切な養育の防止を目的に4つの事業を行いました。

1 つながるきっかけづくり「食料支援」

困窮状態にある家庭にとっては必要性の高い支援であり、支援とつながりやすいものです。経済的支援を通じ、保護者と出会うことを目的に実施しました。

2 こども達の生活改善のための「訪問型家事・育児支援」

こども達が温かい食事や清潔な住居で安心感を得られるよう家事や育児を支援しました。

3 こども達が安心して遊べる・学習できる居場所の提供

家庭以外の場所でほっとでき、遊びや勉強に向かえる時間や場所の提供を行いました。

4 野外・文化体験プログラムの提供

普段の生活では経験しにくいDIYや里山散歩とポーリングなど親子もしくはこどもだけで参加できるプログラムを実施しました。

1 つながるきっかけづくり・食料支援

事業内容	野菜や卵などの生鮮食品・缶詰やインスタント食品・雑貨類などを家族の人数分を無料で配布しました。取りに来たときにスタッフは声をかけ、生活の変化などをお聞きしました。交流スペースを設け、お茶やお菓子を食べながら親子ともに他の家族と交流ができるようにしました。臨床心理士が親同士の話をも促すようにしました。
時期・回数	月1回・年間12回
場所	地域共生館ふれぼの（西宮市中前田町）
対象層	困窮状態にある家庭（おこさんは18歳以下）※主にひとり親家庭
提供家庭数	毎月約35家庭。のべ354家庭（実数72家庭）
対象者層へのアプローチ方法	公式LINEでつながっているひとり親家庭への告知、関連団体への広報の協力依頼・TwitterなどのSNS

効果・ねらい

- 1 他団体との連携（フードバンク、コープこうべ、西宮市社協、えほんのトコロ）
- 2 ひとり親・困窮家庭との出会いの場、継続的な関わり
- 3 団体の他事業へつなぐ（ライブラリー、家事支援、学習支援）
- 4 ピアサポート（おしゃべりや相談、グッズドライブの手伝い）
- 5 ボランティアの活動の場（買出し、仕分け、片付け、こどもの見守りなど）



グッズドライブ



クリスマス絵本プレゼント



食品提供



ボランティアの活躍の場



臨床心理士や親同士の会話



子ども達と大学生との交流

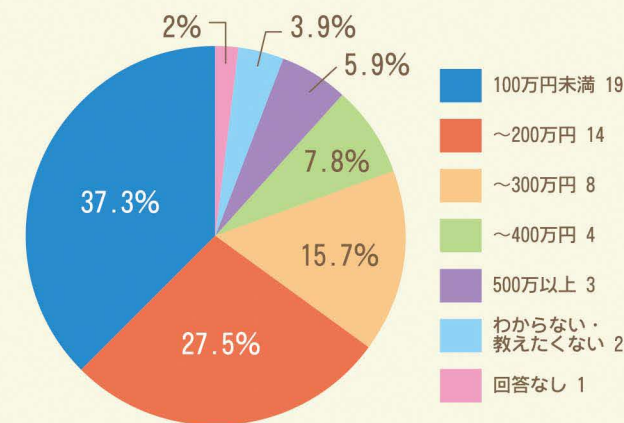
アンケート

- **目的**：当団体が食料支援を行っている家族のおかれている状況を把握し、今後の支援の在り方を考える指標としてアンケートを実施しました。
- **アンケート実施日と対象**：2023年3月9日に食料を取りに来た家庭51家庭にその場でGoogleフォームに記入していただきました。
- **回答件数**：51
- **アンケート結果**：世帯収入が100万未満が37%、200万未満が27.5%と大部分を占めていました。非正規雇用が47%、無職が15%ということからも苦しい経済状況が窺えます。半数以上が映画などのレジャー、宿泊を伴う旅行などを諦めていました。同様に、半数以上が塾や習い事を諦めている現状が見えました。

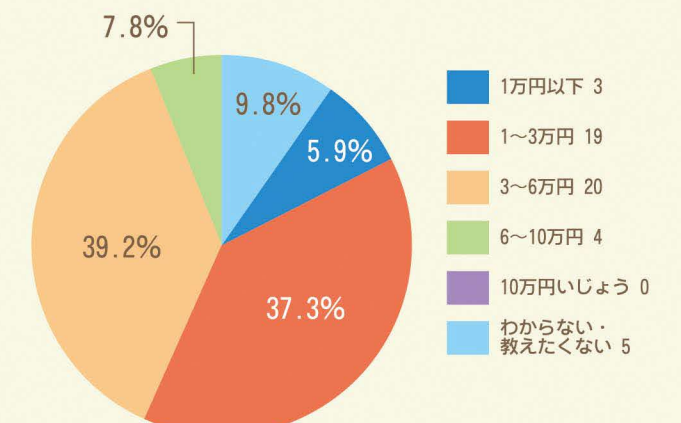
事業担当者より

回数を重ねるごとに、交流テーブルでお茶を飲まれる方が増えてきました。臨床心理士さんが安心な場を作ってくれているということもありますが、何回も来ている方が新しい方に声をかけて一緒におしゃべりしたり、小さいお子さんを見守ってくれる姿がありました。そんな中、スタッフは気になる方に声をかけ、利用者の10%が団体の家事支援に、約30%が居場所利用やイベント参加につながりました。準備や当日のこども見守りなど、ボランティアさんの役割の多い事業でもあります。また、団体や企業からの協力が不可欠で、今年度は書店からの絵本の寄付をいただいてクリスマスにプレゼントできました。

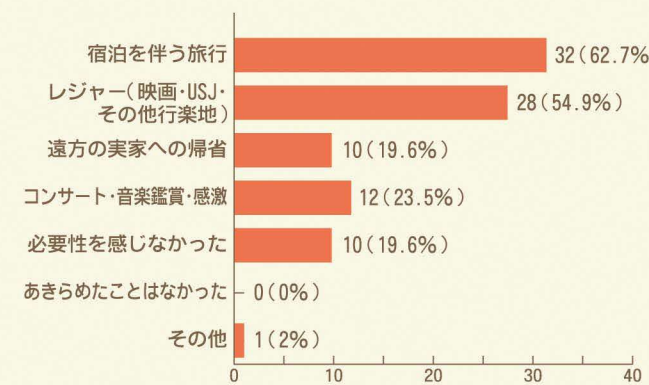
■ 世帯収入を教えてください。51件の回答（養育費・婚費・児童扶養手当・生活保護など含む）



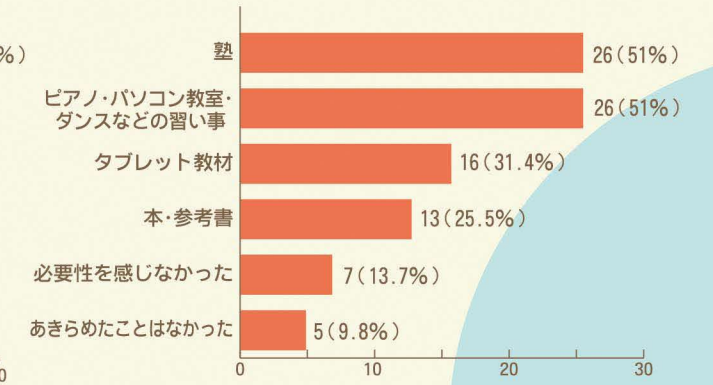
■ 先月の食費を教えてください。51件の回答



■ この1年で経済的理由で「レジャー・旅行・帰省」をあきらめたことはありますか？(複数回答あり) 51件の回答



■ この1年で経済的理由で「塾など学校以外の学習」をあきらめたことはありますか？(複数回答あり) 51件の回答



2 こども達の生活改善のための「訪問型家事・育児支援」

事業内容

家事や子育てに困難を抱える家庭をスタッフ2名が訪問し家事・子育てを一緒に行いました。
(1回2時間/想定訪問回数12回)
①家事およびこどものケア(ペアで訪問) ②絵本の読み聞かせ(ペアで訪問)
③相談のみ(主に1人で訪問)

時期・回数

2023年5月開始2024年3月終了
訪問家庭数:22家庭 訪問数:1回~21回(スタッフの訪問のべ182人)

場所

各家庭

対象層・人数

特定妊婦・20歳以下のこどものいるひとり親家庭・困窮家庭(親の心身の不調や子どもの特性により家事や子育てに困難を抱えている家庭)

対象者層へのアプローチ方法

関連団体から紹介・行政関係課からの声かけ・SNSやメディア発信

ペアで訪問「こどもケア担当」「家事担当」

初回はコーディネーターが訪問し各家庭のニーズを聞き取り、一緒に支援の形を考えました。実際の支援は、スタッフ1名は家事を中心に、もう1名はこどもとのコミュニケーションを中心に行いました。小さなおこさんの場合は食事介助やお風呂介助。幼児以降になると一緒に遊ぶなどスタッフとの関係性を作っていました。サポート期間中、おやごさんと一緒に家事をしながら話をする時間をもち、日常の様子を聞いたり、時には相談に応じることもありました。



公式LINEの活用

ご家庭とは、公式LINEでつながり予定の調整やイベントの声かけを行い、日常的につながりを持ちました。サポート期間が開いてしまう家庭ともコミュニケーションが途切れずにできました。また、急な予定変更や体調の変化についてもすぐに対応できるため、状況の変化が激しいご家庭へのサポートも続けて行うことができました。



アンケート

訪問を受けた家庭の状況(22家庭)

※家事支援以外の相談支援や絵本訪問も含む

■ 訪問支援を知った経路

たねとすく 食料提供等	支援機関からの 紹介	SNSや ネットニュース	口コミ
11	5	4	2

訪問支援を知ったきっかけでもっとも多かったのは、当団体が毎月1回実施している無料の食料提供での個別の情報提供でした。毎月顔を合わせ、困りごとをお聞きしている中で家事支援やこどもの支援の必要性を感じ、ご提案をさせていただきました。ご自身の困りごとを整理して誰かに支援を求めることは当事者にとって難しいことですがゆっくりと関係構築をした間柄では相談がしやすいことがわかってきました。そのほか、児童相談所や支援団体からご相談を受けるケースも増えてきました。課題が複雑に絡み合ったご家庭もあり、連携して支援にあたりました。

■ 支援が必要な理由

こどもに障がい・ 発達障がい	親の病気・怪我・鬱	乳幼児・ 双子育児の大変さ	父子家庭・その他
3	9	6	4

支援が必要な理由を大きく分けてみるといくつかの理由に分けられましたが、共通していたのはどの家庭も何らかの理由で子育てに困難がある状態でした。親の多くがSOSを出すことが得意なわけではなく、こどもの生活を整えるために支援を求めてきていると感じました。また、一時的なしんどさではなく、障がいや病気など長期的に支援が必要な状態でした。

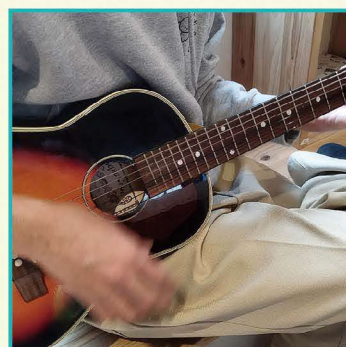
学生スタッフの声

面識のある家事サポートスタッフと共に学習支援へ行くことで、親は安心して大学生スタッフに勉強を任せることができていたように感じた。親の持つ勉強の悩みなどを家事サポートスタッフに伝えることができていたようだ。学習を通してこどもが学校での様子や勉強で不安な点を伝えてくれた。当時完成間近だった、たねとすくライブラリーへ行く動機付けになっていたように思う。



3 こども達が安心して遊べる・学習できる居場所の提供

事業内容	当団体の「たねとしくライブラリー」を利用して、こども達が安心して遊べ、勉強できる時間を提供しました。主に学生スタッフがこども達との時間を過ごしました。年齢に応じて、遊びの種類や学習補助など、個々に合わせた支援を行いました。1月以降は受験生を主な対象として自習室を開館しました。昼間にはみそ汁などスープを用意し、利用者が一緒にテーブルを囲んで食べることもありました。
時期・回数	夏休み2日間・平日1日・日曜日（1月以降） 38日間・のべ106名参加
場所	たねとしくライブラリー（西宮市六湛寺町）
対象層・人数	学習の補助や家庭や学校以外の居場所が必要な困窮世帯の小学生・中学生・高校生
対象者層へのアプローチ方法	つながりのあるひとり親家庭への直接アプローチおよび、中高生対象にSNS、学校での教職員からの声かけ・チラシ配布・他団体・行政職員からの紹介・スクールソーシャルワーカーからの紹介



学生スタッフの声

来館したこどもたちは、学校以外で学習する時間を確保できない子が多い。ライブラリーで自分なりに自由に学習することで「家ではゆっくりできないから」「1人では分からないことがあるから」と話すこども達は、学びに対する意欲が高められていると感じた。実際に、ライブラリーでの学習を通して「もっと勉強したい」と話すこどもが多かった。学生スタッフは、勉強の話はもちろん、そのとき分からないことや苦手な科目を一緒に行い、勉強を教えてくださいという安心感を与えるように関わった。

4 野外・文化体験プログラムの提供

事業内容	ひとり親家庭のこどもたちが、普段の生活の中で経験しにくい活動ができるよう企画しました。また、こどもたち同士の関わりも自然と生まれやすいようしました。親子で参加、または親が当団体を信頼してこどもを送り出すことにより、安心してプログラムに参加できる環境になりました。ボランティア、スタッフなどいろいろな人との関わりの機会を準備し、人と関わる心地よさを体験できる時間にしました。
対象層	ひとり親家庭の幼児～中学生
対象者層へのアプローチ方法	つながりのあるひとり親家庭へ公式LINEを通じて案内

1 2023.08.26(土) タイルアートワークショップ

場所：たねとしくライブラリー
参加人数：こども8人
内容：タイルを使って、鍋敷き、コースター、飾りなどを作るワークショップ。夏休みの宿題提出にもなる。ワークショップのあとは、昼食を食べたり、本をみて過ごした。

2 2023.11.03(金) 甲山へ秋の遠足

場所：甲山森林公園
参加人数：こども12人、保護者5人
内容：昼食づくり(ホットドッグ)・秋の自然の中、散策(自然物探し)・広場での遊び(大縄遊び、プロペラとばし、ボール遊びなど)

3 2024.01.21(土) ボーリング

場所：西宮トマトボール
参加人数：こども13人、保護者3人
内容：チームに分かれて、ボーリングを2ゲーム楽しむ

事業担当者より

みなさんが安心して参加されていました。小学生高学年以上の多感な時期の女の子には特に安心が必要であり、安心だとお喋りも弾みます。学生ボランティアとの関わりもうまれ、交流会をきっかけにサードスペースとしてのライブラリーに来るこどもたちもいました。ものづくり、野外遊び、レジャー施設といろいろな経験ができ、今後、自分が好きなことや得意なことを見つけるきっかけになってくれればと思います。

絵本イベントの開催

当団体では、本事業のほかにもひとり親家庭のこども達向けの体験イベントを月1回開催しました。(コープ共済「地域ささえあい助成」)「たねとしくライブラリー」やコープの組合員室を利用し、こども達に本になじんでもらえるイベントを行い、毎回、乳幼児から中学生までが参加してくれました。



絵本イベント



タイルアートワークショップ



甲山へ秋の遠足



ボーリング

学生スタッフの声

料理や音楽、科学など、毎月違ったジャンルのイベントを通して、こどもたちは新しい世界を知り、生き生きと活動していた。「絵本x○○」を軸にして、企画内容に合った絵本の読み聞かせから始めることで、導入がスムーズになり、ライブラリーの特色を生かしつつ様々なことが体験できるイベントになった。イベントでは、黙々と作業する子がいたり、喋りながら作業する子がいたり、思い思いに活動していたが、うまくできない子を手伝っている姿が印象的だった。

事業の成果と課題

	成果	課題
<p>1 つながる きっかけづくり 「食料提供」</p>	<p>毎月1回、同じ人と顔を合わせることで家庭の変化にすぐに気づき「ケア」的な声かけができる。病気やケガによって生活に困難があった場合はすぐに家事支援に訪問することができました。</p>	<p>遠方から炎天下の中、長時間自転車をこいで取りに来られる方が大勢いました。体調が悪くて取りに来れない方もいました。支援が必要な家庭に支援が届かないことがないように仕組みを整える必要があります。</p>
<p>2 こども達の 生活改善のための 「訪問型家事・育児支援」</p>	<p>スタッフがペアで訪問することで、こどもと親の話をそれぞれしっかり聞くことができました。こどもとの関わりに悩む親が多かったので、両者の間に入ることで、親子の関係がスムーズになることもありました。</p>	<p>訪問支援終了後、1対1で親の話を聞く時間がとりにくくなります。そのことで不安に感じておられる方もいました。家庭訪問や居場所や相談の機会を持つのか、ほかの方法があるのかなどを探していきたいです。</p>
<p>3 こども達が安心して 遊べる・学習できる 居場所の提供</p>	<p>「ライブラリー」があることで親はこどもを安心して送り出すことができました。こどもは親と離れて、大人に話を聞いてもらう時間が取れました。学習の機会を作ることができ、学びへの意欲が高まる子が出てきました。</p>	<p>学校の標準的な学びのペースに合わない子達や学校に行きにくいこども達に対して、継続的に個別的なかわりが必要だと感じました。家庭や学校との連携ができるとよりよい支援になると考えます。</p>
<p>4 野外・文化体験 プログラムの提供</p>	<p>普段できないような体験をこども達が経験することができ、楽しく過ごすことができました。回数を重ねるごとにこども達も仲良くなり、私たちと一緒にいてリラックスできるようになってきました。</p>	<p>年齢や発達状況など多様なこども達が来館しており、すべてのこども達が同じプログラムで満足することは難しいと感じました。丁寧に企画していく必要を感じました。</p>
<p>全体を通じて</p>	<p>4つの事業が連動し、親子を多面的に支えていくことができました。行政や支援団体、児童相談所、学校など地域の支援者から多くのご相談とご紹介を受けました。また、連携してこども達を支えることも一歩進みました。</p>	<p>当団体の活動を信頼してご相談を受けるケースが増えてきました。その分、家族の形態やこども達の状態が多様で課題も多岐にわたっており、ひと家族のケアにかかる時間も増えています。当団体だけで抱えてケアが不十分にならないように他団体との連携は喫緊の課題です。</p>

今後の展望

支援者を増やす活動の充実

西宮市の人口は約49万人です。東西南北に広く約100km²あります。どの地域にも困窮家庭は暮らしており、身近な場所で支援を受けられる環境が必要です。こどもの支援を行う団体はまだ足りていません。こども食堂や食料提供ができる人や団体が増えれば、それだけ助かる家族も増えます。たねとすずくは、市内で活動したいという方向けの講座やイベントなどを行い、こども達を支える支援者を増やす活動を増やしていきます。

行政・学校・支援団体との連携の強化

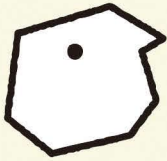
今年度は、ひとり親家庭に限らず、様々な家族の支援をさせていただきました。家族の形は多様になっており、こども達がおかれている状況も多様です。当団体のような小さなNPOだけでは十分に支援ができません。こども達が孤立せず、また十分なケアが得られる状況を作るためには、他団体や行政と連携をしながら支援にあたる必要があると感じています。普段から連絡を取り合い、信頼関係を築けるよう努めてまいります。

訪問と居場所支援の事業モデル化

訪問型支援と居場所支援を連動させた当団体の事業モデルが他地域で展開され、市内・県内・国内のこども支援が発展していくために、当団体が蓄積してきた支援の形を普及できればと考えています。小さな任意団体やNPO法人からの視察を受け入れ、研修を受けられるようにしていきます。



こども達がどこに暮らしていても「助けてって言うていいよ」という大人が増え、安心して暮らし、こどもらしく過ごせる社会の実現に向けて、今後もスタッフ一同が力を合わせて活動してまいります。



たねとしずく
こどもサポートステーション

「こども達を孤立させないつながる伴走支援」事業
特定非営利活動法人 こどもサポートステーション・たねとしずく

■ オフィス : 〒662-0856 兵庫県西宮市城ヶ堀町2-22 早川総合ビル3F

■ ライブラリー : 〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町12-5

Mail: tanetosizuku@gmail.com

たねとしずく

🔍 検索



たねとしずくHP

たねとしずくライブラリー

🔍 検索



ライブラリーHP

本事業は「こどもの未来応援国民運動」の助成を受けて実施しました。



こどもの未来応援国民運動

発行：2024年3月